



どう取り組むか

校長 安達 修久

子どもたちはご家庭で、どのように夏休みを過ごしたでしょうか。長期休みということでゆったり過ごし、その中でも学校からの課題などの学習に取り組み、充実した日々であったならよいと思います。残暑はまだまた続く様子なので、熱中症予防とともに、引き続き感染症予防にも努め、子どもたちが学校で元気に過ごせるようにしていきます。

休み中にクイズ番組を見ていたら、いわゆる「夏休みの宿題」についての問題が出されていました。「小学生のうち、夏休みの宿題をギリギリで全部終わらせる人は、何パーセント？」というものです。私は、自分や我が子の小学生時代を思って、「68パーセントぐらい？」と家族と話していましたが、正解は「6パーセント」！調査した機関や人数はわかりませんが、なんと対象の94パーセントの小学生が、「ギリギリ」にならないうちに「夏休みの宿題」を終わらせているというのです。我が家では、ほぼ毎年最終日まで苦勞して、もっと余裕をもって終わらせたいといつも考えていました。「ギリギリ」が夏休み終わりのいつ頃を指すのかは不明ですが、最終日は間違いなく「ギリギリ」なので、いささか衝撃の数字でした。

学校から出している夏休みの課題は、すぐ終わってしまうものもあれば、ある程度時間を要するものもあります。そして内容によっては少なからず、ご家庭の支援をいただいていることと思います。学習内容の復習は自分一人で取り組めるかと思いますが、ご家族に教えていただく必要もあるかもしれません。作品作りや、家庭を離れて調べたり体験したりする活動の記録や考察などでも、子どもだけでは実行が難しいこともあるかと思えます。

学力については「学習内容をどれだけ身に付けたか」だけでなく、「学習にどう取り組むか」も大切であると考えられています。反復して身に付ける内容については、「どれだけの回数くり返すか」だけでなく「身に付けるためにどのようにくり返すか」を考えて取り組むことが大切です。家庭を離れて調べたり体験したりするには、保護者の方の同伴や指導監督が必要になることがあります。その記録や考察、あるいは作品作りにおいても、作業を実際に行うのは子どもたちですが、ご家庭でのアドバイスやご協力があると、質の向上が期待されるのは言うまでもありません。その際に子どもたちは、自分だけで取り組むことでは気付かなかった方法にふれたり、たどり着けなかった境地を知ったりできるはずで、この経験は、その後子どもたちが「学習にどう取り組むか」に生かされることと思います。

子どもたちのやり遂げた「夏休みの課題」を、ご家庭でのご支援にも思いをはせながら見せていただきたいと思えます。ご協力誠にありがとうございました。そして、取り組む中で培った力が、今後の学習に生かされるよう努めていきます。